

風船乗りの夢

萩原朔太郎

1 風船（＝気球）を見る前の心情

現実否定・嫌悪 ↓ どこかへ行つて見たい ↓ 異郷への憧憬

暗

← 気球に魅了される＝幻想・妄想の始まり

2 風船乗りの夢＝気球に魅了され、幻覚を見始める。

・子午線を越える

・虚無の中を吹かれ行く

・草地も見えない

＝現実（ここ）からの逃避

・旧暦の暦をのせ

・記憶の時計のぜんまいも停止

＝現実（いま）の否定

醉ひどれの見る美しい幻覚

明

3 美しい幻覚の終わり

・どこをめあてに翔けるのだらう

「いま」「ここ」を否定するが、「明日」にも、

暗

「どこ」にも、自分の居場所を幻想さえできない。

4 酒の力を借りず、自分の居場所（異郷）を幻想

・知覚もおよばぬ真空圏内

・ふしぎにさびしい宇宙のはて

＝人間や現実から完全に遮断された世界こそが自分の居場所

まとめ

単なる現実逃避・嫌悪・疎外感による異郷への憧れではなく、

人間社会や人間関係による耐え難い束縛感と絶望とによって、

明

人と無縁である宇宙の果てを夢想せざるを得なかった詩人の

屈折した解放感。

=

人間の本质の一側面を表現している。